2023 年 8 月吉日

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°27　ナナ・ヴァン

生産地方：ラングドック

新着ワイン 3 種類♪

VdF スゼット！2022（白）

前年までテレブラン（Terret：別称テレット）とクレレットのアッサンブラージュだったが、より酸にキレのある味わいに仕上げるために、パートナーのエミールの所有するヴィエーユ・ヴィーニュのカリニャンブランを今回クレレットの代わりに使用した。ナタリー曰く、カリニャンブランは晩熟品種で、グルナッシュブランのようなふくよかと酸を兼ね備えた骨格のある味わいが特徴とのこと。彼女は今回カリニャンブランの骨格は全く求めず、逆に早めに収穫することでカリニャンブランの持つ酸を引き出した。出来上がったワインは、まるで搾りたてのグレープフルーツを飲んでいるかのような柑橘系の酸と苦みが心地よいフレッシュな味わいに仕上がっている！よく酸を意識した南のライトな白ワインにありがちな味わいのアンバランスさは全くなく、ブラインドだとまるでロワールやアルザス北の白を彷彿させる！このような軽快で柑橘豊かな涼しいワインに仕上げるセンスはさすがナタリー、もう明らかに南の生産者では群を抜いている！

VdF ブディ・ブディ！2022（ロゼ）

北のピノドニスと南のサンソーの味わい的に近しい関係を英語の Buddy-Buddy（バディ・バディ：親しい間柄）と表現しアッサンブラージュをしたワイン。今回はサンソーが豊作だったのに対しピノドニスは霜により減収だったため、直接プレスで仕込んだサンソーのアッサンブラージュ比率が 60%と前年よりも 30%高い。色合いも前回よりロゼらしいサーモンピンク、またはペルドリの目の色を呈している。出来上がったワインは、みずみずしいサンソーがベースのロゼだが、全房のピノドニスのセニエが 8 日間と前回よりも少し長くしただけあり、紅茶のような優しいタンニンの感じられる輪郭のはっきりした味わいに仕上がっている！

VdF コンジョー2021（赤）

白のマセラシオンをつくろうとしたところ、誤って収穫者がサンソーを加えてしまった偶然のアクシデントから生まれたキュヴェ。以来早熟晩熟にかかわらず全てのブドウを同じ日に収穫し、全て一緒に混ぜて仕込んだスタイルがこの Konjo（混醸）だ。2021 年は例年よりも涼しい年だった。ナタリー曰く、収穫日は晩熟ブドウも早熟ブドウも全てサンソーのタイミングに合わせていて、基本的にカリニャンやサンソーなど赤は全て全房、そして残りの白ブドウ品種は全て除梗し、ミルフィーユ状に重ね合わせて醸しを行なっているそうだ。ちなみに、今回は前回と違いカリニャン赤の梗が青かったため、マセラシオンは 12 日間と早めに切り上げた。出来上がったワインは果実味が明るくジューシーで、まるでフレッシュなクランベリーエキスを飲んでいるかのようにピュア！赤白関係なく品種と完熟のタイミングが全く異なる南のブドウを全てひとつにまとめて、まるでプールサールのような官能的かつ味わい深いワインに仕上げる彼女のセンスは、コストパフォーマンスはもちろん、もはや凡人が到達できない芸術の域に達しているような気がする！

ミレジム情報　当主ナタリー・ゴビシェールのコメント

2021 年は、歴史的な春の遅霜の被害があったにもかかわらず辛うじて収量が確保できたミラクルな年。冬のスタートは例年並みの寒さだったが、雨が少なかった。春の発芽は順調だったが、ちょうど双葉が出始める 4 月 7 日、8 日の未明に気温がマイナス 5℃まで下がる 1656 年以来の大寒波がラングドック全域を襲った。この霜により最初の主芽はほぼ全滅…。幸い、その後に発芽した副芽にブドウの房が多く付いていたので、霜により収量が大幅に減るということはなかった。その後、雨の多い不安定な天候が続き、ミルデューやオイディオムなどの猛威により 10%~20%ほど収量が減ったが、最終的にどのブドウも 1 ヘクタール当たり 30hL 前後の収量を確保することができた。ブドウの品質的には、夏が涼しかったおかげで酸が乗り、久しぶりにアルコール度数低めのみずみずしいブドウが収穫できた！

2022 年は、記録的な干ばつの年だったにもかかわらずある程度の収量に恵まれたミラクルな年。冬のスタートは暖冬で比較的雨が多かった。春は寒波もなく発芽も順調で、雨も 4 月上旬まで適度に降っていた。だが、4 月中旬から雨はぱったりと止み、8 月の終わりまでほとんど雨の降らない厳しい水不足が続いた。この記録的な干ばつにより多くの河川の水位が下がり、またラングドックの各地で大規模な山火事が発生した。幸い日中の気温は暑くても夜が涼しかったこと、そして 6 月末に唯一降った 80 ㎜の豪雨により辛うじてブドウは水不足に耐えることができた。7 月、8 月は極度の乾燥と猛暑により一時成長にブレーキがかかったが、9 月初めに降った 10 ㎜ほどの雨によりバテ気味のブドウも一気に復活。ここ近年の中で降雨量が一番少ない年にもかかわらず、最終的に例年並み、もしくは例年並み以上の収量が確保できた！

「ヨシ」のつ・ぶ・や・きは、お休みです m(__)m